

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100199		
法人名	社会福祉法人 鷹山会		
事業所名	幸の家(旧館)		
所在地	福井県福井市免鳥町22-70		
自己評価作成日	平成25年11月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた安らぎのロケーションで、建物は木造にて木のぬもりを感じます。やわらかな自然光が差し込む吹き抜けの廊下、そして各居室やフロアからの眺められる景色は季節を感じて頂けます。天気の良い日は、中庭で日光浴ができます。渡り廊下から外の景色を眺めながらの朝・夕の廊下歩行は、気持ちの良いものです。職員は、サービスの質の向上に向けて、意識を高めながら日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は越前海岸を望む国道305号線沿いに位置し、介護老人福祉施設「悠和園」に隣接する木造平屋建てのグループホームである。敷地内には、四季折々の季節を感じさせる中庭があり、どの建物も大きく窓をとった通路でつながっており、廊下からも庭や外部を眺める事ができ、大変開放感がある。その建物の形を利用し、機能低下を防ぐ事を目的として日常的に歩行訓練や体操を取り入れている。母体法人である鷹山会は20年余の歴史があり、地域に根差した介護を実践しており、当事業所もその伝統を強く受け継いでいる。毎年行われる「納涼祭」は、子供たちを含む地域住民・ボランティアの協力のもと、踊りや三味線・歌謡ショーや花火など盛大に行われ、利用者・地域住民にも大変喜ばれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「安心、安全をモットーに入居者が心安らかに自分らしく尊厳を持って暮らせる生活を支援します。」の下に、職員一同共有に努める為、毎朝のミーティング時に唱和し実践につなげている。	法人理念をもとに職員で作り上げた事業所理念「笑顔であふれる・家庭的で楽しい・長寿を感謝するホームづくり」を職員・家族・来訪者の目につくホーム入口に掲示し、常に意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の幼稚園、小学校、中学校が当事業所に慰問に来る等の交流を行っている。また、地域の方が野菜や果物をホームに届けて頂いたり、地域で実施される文化祭には利用者の作品を展示して頂いている。	地域や近隣との交流には母体法人の「お元氣会」を通して積極的に関わっている。また子供たちの体験学習の受け入れも行っている。利用者の交通手段は市が運営する福祉バスを利用し地域とふれあっている。	母体法人を通じての活動だけでなく、グループホーム独自に活動し情報を地域に発信することで、さらに地域協力を得られる関係となる事に期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援の方法が伝わるよう広報誌を作成し、ご家族の方へはもちろん、面会に来られた方にも気軽に手に取って頂けるように、玄関に設置し声掛けも行っている。去年の家族会では認知症研修を実施している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所からの報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を受け、サービスの向上につなげているところである。	2か月に1回、民生委員・自治会長・家族代表・地域包括支援センター・介護相談員の参加を得て、入居者状況・活動内容を報告するとともに、参加者と職員との意見交換も出来ており、会議での意見は即対応するよう努力している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には交流の為に会議等に出で頂けないかと直接働き掛けを行ったが、現在のところ市町村担当者とそれ以上の交流がないところである。	地域包括支援センターや介護相談員を通じて市との連携は出来ている。利用者の認定更新時は職員が市へ出向いて報告・相談を行い、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内での内部研修に職員が参加し、身体拘束をしないケアの周知徹底を行っている。また、園として身体拘束委員会を開催し、各部署ごとに参加することでそれぞれの状況、活動を発表し合っている。	日中は施錠せず、外に出ようとする利用者に対しては職員の配置を工夫し、センサーも利用して安全に心がけている。身体拘束マニュアルに沿って内部研修を実施し、ミーティング時に職員に常に意識するよう促すことで職員に周知・徹底している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修に参加し、ミーティングなどで伝達を行っている。また、日常生活を通し、虐待行為に当たるような対応が行われていないか常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で行う研修に職員が参加し、利用者の権利擁護について学んでいる。また、成年後見制度に関しては、実際本年度活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意を得ているところである。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不満や意見など全職員がミーティング等で情報を共有できるよう心掛けし、その場で業務改善ができるような内容であればすぐに反映させているところである。	家族の面会時や電話などで意見を聞き取り、随時ミーティング等で全職員で情報を共有している。特に利用者の安全に関わる家族からの要望や意見に対しては速やかに対応するように心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の園内の職員会議、ホーム内でのスタッフ会議と意見を聞く場を設け、また、職員用の意見箱を設置するなどして反映させるよう努めている。	毎月の職員会議やスタッフ会議で職員からの意見を聞き取り、運営の改善に反映している。勤務年数の長い職員が多く、職員間のコミュニケーションも充分はかられる環境であり、職員は各自支援目標を掲げて意欲的に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を高める為、園内外を問わず研修した内容をスタッフ会議を通して全職員に情報共有することに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの機会には積極的に参加しているところである。研修の報告としては、月1回のスタッフ会議の際に報告会を設けて復命することとなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協議会に参加し、同業者が集う会にて情報交換を行うとともに、同協議会が主催する他事業所への交換実習に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネより情報収集している。可能であればホームまで来所し本人の要望等を聞き入れているところである。また、入居前に本人、家族の見学を実施し、希望があれば体験外泊も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今何が必要かを家族及び本人と一緒に導き出している。そこで「できる・できないシート」を使用し確認を行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族の話聞き、それぞれが感じている不安や疑問、ニーズを見極めたうえで、本人にとって一番良いと考えられるサービスの提案、合意のうえで提供するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等、ご利用者様と共に日々行う事で色々な助言を頂いたり、また外出等の機会に会話することで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを面会時や電話などでお伝えすることで共通認識につなげ、本人を支えていく為の協力関係作りに努めている。またご家族の思いも十分に汲み取りながら、時には間に入る事でお互いの理解を深めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者それぞれの馴染みの場所(自宅や近隣の場所(お寺さん等))が疎遠にならないよう、希望に併せて外出の支援を行っている。また、それぞれの地域のお祭り等の行事などに併せた外出の支援等も同様。	園内にある喫茶コーナーは昔なじみの住民と触れ合うこともでき、また新たに顔なじみになる場所にもなっている。帰宅は家族対応も可能であり、希望により近隣をドライブすることもある。年賀状や手紙の支援も随時対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションにできるだけ利用者全員が参加して頂くようにし、交流を深めて頂いている。ホールでのテーブル席は相性の良さを客観的に決めており、気の合う人との会話を大切に頂き、場合によっては、本人の意見を尊重し席替えも随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。また、併設施設への入所となったケースではその本人やご家族含め、面会、行事等でお話するように心掛けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活の中での症状や会話などから本人の希望や意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で本人の思いや望みを把握し、申し送り時に情報を共有し記録している。意思疎通が困難な利用者については、職員間の日頃の情報を基に家族の協力を得て、本人の希望に沿うようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャー等、関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書等を活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握するように心掛けている。また、毎朝のミーティングにて、現状の情報共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において話し合いを実施、意見や提案を反映したプラン作りに心掛けている。	月1回のスタッフ会議や担当者会議で本人や家族の意見・要望を踏まえた意見交換を行い、担当職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングを行った結果、現状に変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス表や個別記録を基にモニタリング、ケアプランの見直し、評価を実施している。また、個別記録に毎日その日あった出来事を記録している。また、朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状態に応じ、通院などの支援を柔軟に対応している。併設施設への各種行事参加、交流を行い調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌、踊り、紙芝居等の慰問の団体やボランティア、幼小中学校の慰問や公民館行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認した後、それぞれに受診を行っている。受診できない場合は、かかりつけ医と連携し、適切な処置等対応を行っている。	主治医への受診は基本的に家族同行とし、定期的に協力医の往診も受けている。医師への情報提供は文書または口頭にて行っており、必要に応じて職員が同行する場合もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所で看護職員を配置し、日常の健康管理を行っているところである。また協力医や併設施設との看護職員との情報交換を実施し医療支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーと関係医療機関の窓口(地域連携室等)との情報交換を行い退院支援を行っているところである。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期のケアについてご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、協力医との連携を行い看取り介護を実施している。また看取り介護指針を設置し、方針の共有を図っている。	入居時に「看取りの指針」を説明し、家族の意思確認を行っている。家族の希望により指針に基づき終末ケアの実施も可能であり、主治医・協力医・看護師・職員との連携体制も整っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して職員に周知しており、その通り実施しているところである。また、消防署の救急隊員の協力のもと、対応の講習を行っている。AED・酸素吸入器もあり講習も実施。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・昼間を想定した避難訓練を実施しているところである。また地域自治会と防災協定を結び、地域連携訓練を実施している。併設特養と連携訓練も行なったり、土砂災害の避難訓練も実施している。	年2回、日中と夜間想定火災訓練を行っている。近隣に臨海消防署があり、消防署や地域との連携もとれていて、職員の防災意識も高く、地域の防災訓練にも参加している。当施設が津波想定避難場所にも指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドを尊重し、日々のケアの中で周囲に判らないケアを心掛けている。また、プライバシー情報に関する保護の方針・目的を策定、内部研修などで周知を図り実践しているところである。	研修や指導により職員の意識付けを行い、声かけの仕方や声の大きさにまで気を配っている。プライバシーを尊重し、個々の思いや状況に合った生活ができる支援を心掛けている。個人情報や記録も適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、選択の自由を心掛けたケアを行っている。利用者との会話では命令口調にならないよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課にそった基本的な流れはあるが、個人のペースにそって無理のない生活が送れるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を自由に着て頂いている。定期的に理容ボランティアの支援、スタッフでは随時散髪、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは利用者さんと共に行っている。また味付けの助言も毎日頂いている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう雰囲気作りを大切にしている。	調理済みのものではなく、食材から利用者と一緒に調理し、家庭の延長のような雰囲気である。食事に集中できるように落ち着いた環境の中、エプロン姿の職員が利用者に寄り添い、普段の関係の良さがうかがえるあたたかい食事風景である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェックし、記録することでスタッフが情報を共有している。メニューは併設施設の管理栄養士にチェックをして頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っており、可能な限る自力で歯磨きを行って頂いている。就寝前に義歯洗浄剤での洗浄も実施し、清潔な状態を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握したうえで適切な介助を行っているところである。またプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	利用者の排泄チェックの記録により排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。失敗を隠そうとする利用者にも職員は優しく関わり、自尊心を傷つけないよう配慮し対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録にて管理し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。野菜、果物、繊維質の多い食材を取り入れ、栄養バランスに気を付けている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを適宜受けたり、昼食前の全員での体操や、1日2回の歩行訓練を取り入れる等の工夫をしている。また、今年度は特に水分摂取量に目標値を定めたり、自家製ドリンクを飲んでいただいたり取り組みを行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、日中ではあるが一人ひとりに入浴順の記希望やタイミングを確認しながら対応している。入浴剤なども使用している。	入浴は原則週2回であるが、本人の希望により回数を増やす事も可能である。拒否する方には無理強いせず、曜日や時間帯、担当者を変更するなど臨機応変に対応している。また、入浴剤を使用し利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握したうえで、日中に活動が多くなるよう支援させて頂き、夜には落ちついた環境を提供し、安眠して頂けるよう支援している。日中水分を多く取ることと安眠できるよう回数を多くしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効についてのファイルを作成している。全職員がその情報を共有し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更時には、本人への説明も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、その方々に役割を持って頂けるよう、促し支援を行っているところである。また、生活歴などから、その人の得意なことを把握し発揮して頂けるようなチャンス作りに心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温などを考慮し、希望に沿って散歩や外出ができるよう支援しているところである。季節に応じてふきのとうやふき、栗ひろいなども一緒に行なっている。	日常的に散歩したり外で弁当を食べたり外食したり、地域とのふれあいがある。利用者の希望により職員が付き添って隣の介護老人福祉施設の友人に会いに行くなどにも対応している。季節毎の外出は、年間行事計画に基づき花見や菊人形見学などを行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感の為に自分の財布や小額の金銭を持って頂いている。買い物、ドライブなどに出掛けることで支援している。また、併設施設での喫茶店や自販機まで職員が付き添い、飲み物を購入して頂いたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが書いた年賀状を毎年送ったり、手紙に関しては必要に応じて支援している。希望のある方は、ご家族に電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が作成した作品を廊下に掲示したり、季節に合った壁画を飾ったり、各居室の前の廊下には花を生けて飾ったりしている。台所からはいつも調理の音や匂いがするよう家庭的で居心地の良い空間づくりを心掛けています。	家庭の様にくつろげる雰囲気のあるホールには、肘付きのソファが設置され、個々に落ち着いて利用できるように配慮がされている。また、壁には季節毎の手作り作品の中に、一日のスケジュールがわかりやすく掲示されており、生活のリズムを目で感じる工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、個々の居場所を確保し気の合ったご利用者様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込んで使用して頂いている。家族の写真も目の見える所に置いたり、自分の作った作品なども飾って頂いている。	扉を閉じればプライバシーが守られ、ベッドや収納スペースも機能的で、利用者の動きに沿った配慮がなされている。持ち込まれた家具やテレビ、家族写真などがあり、自宅にいるようなくつろげる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段等移動空間に手摺を配置し出来るだけ自立歩行が可能となるよう安全面に配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100199		
法人名	社会福祉法人 鷹山会		
事業所名	幸の家(新館)		
所在地	福井県福井市免鳥町22-70		
自己評価作成日	平成25年11月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた安らぎのロケーションで、建物は木造にて木のぬくもりを感じます。やわらかな自然光が差し込む吹き抜けの廊下、そして各居室やフロアからの眺められる景色は季節を感じて頂けます。天気の良い日は、中庭で日光浴ができます。渡り廊下から外の景色を眺めながらの朝・夕の廊下歩行は、気持ちの良いものです。職員は、サービスの質の向上に向けて、意識を高めながら日々努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「旧館ユニット」の記載と同じ。</p>
------------------------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「安心、安全をモットーに入居者が心安らかに自分らしく尊厳を持って暮らせる生活を支援します。」の下に、職員一同共有に努める為、毎朝のミーティング時に唱和し実践につなげている。	以下、「旧館ユニット」の記載と同じ。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の幼稚園、小学校、中学校が当事業所に慰問に来る等の交流を行っている。また、地域の方が野菜や果物をホームに届けて頂いたり、地域で実施される文化祭には利用者の作品を展示して頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援の方法が伝わるよう広報誌を作成し、ご家族の方へはもちろん、面会に来られた方にも気軽に手に取って頂けるように、玄関に設置し声掛けも行っている。去年の家族会では認知症研修を実施している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所からの報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を受け、サービスの向上につなげているところである。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には交流の為に会議等に出る機会がないかと直接働き掛けを行ったが、現在のところ市町村担当者とはそれ以上の交流がないところである。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内での内部研修に職員が参加し、身体拘束をしないケアの周知徹底を行っている。また、園として身体拘束委員会を開催し、各部署ごとに参加することでそれぞれの状況、活動を発表し合っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての内部研修に参加し、ミーティングなどで伝達を行っている。また、日常生活を通し、虐待行為に当たるような対応が行われていないか常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内で行う研修に職員が参加し、利用者の権利擁護について学んでいる。また、成年後見制度に関しては、実際本年度活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、同意を得ているところである。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不満や意見など全職員がミーティング等で情報を共有できるよう心掛けし、その場で業務改善ができるような内容であればすぐに反映させているところである。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の園内の職員会議、ホーム内でのスタッフ会議と意見を聞く場を設け、また、職員用の意見箱を設置するなどして反映させるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を高める為、園内外を問わず研修した内容をスタッフ会議を通して全職員に情報共有することに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの機会には積極的に参加しているところである。研修の報告としては、月1回のスタッフ会議の際に報告会を設けて復命することとなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協議会に参加し、同業者が集う会にて情報交換を行うとともに、同協議会が主催する他事業所への交換実習に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネより情報収集している。可能であればホームまで来所し本人の要望等を聞き入れているところである。また、入居前に本人、家族の見学を実施し、希望があれば体験外泊も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い、状況などを確認したうえで、今何が必要かを家族及び本人と一緒に導き出している。そこで「できる・できないシート」を使用し確認を行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人と家族の話聞き、それぞれが感じている不安や疑問、ニーズを見極めたうえで、本人にとって一番良いと考えられるサービスの提案、合意のうえで提供するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等、ご利用者様と共に日々行う事で色々な助言を頂いたり、また外出等の機会に会話することで日常生活の知恵を学ばせて頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを面会時や電話などでお伝えすることで共通認識につなげ、本人を支えていく為の協力関係作りに努めている。またご家族の思いも十分に汲み取りながら、時には間に入る事でお互いの理解を深めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者それぞれの馴染みの場所(自宅や近隣の場所(お寺さん等))が疎遠にならないよう、希望に併せて外出の支援を行っている。また、それぞれの地域のお祭り等の行事などに併せた外出の支援等も同様。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションにできるだけ利用者全員が参加して頂くようにし、交流を深めて頂いている。ホールでのテーブル席は相性の良さを客観的に決めており、気の合う人との会話を大切に頂き、場合によっては、本人の意見を尊重し席替えも随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っている。また、併設施設への入所となったケースではその本人やご家族含め、面会、行事等でお話するように心掛けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活の中での症状や会話などから本人の希望や意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネジャー等、関連職種からの聞き取りや、日々の介護記録、各情報提供書等を活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。また、毎朝のミーティングにて、現状の情報共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において話し合いを実施、意見や提案を反映したプラン作りに心掛けている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス表や個別記録を基にモニタリング、ケアプランの見直し、評価を実施している。また、個別記録に毎日その日あった出来事を記録している。また、朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状態に応じ、通院などの支援を柔軟に対応している。併設施設への各種行事参加、交流を行い調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌、踊り、紙芝居等の慰問の団体やボランティア、幼小中学校の慰問や公民館行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を確認した後、それぞれに受診を行っている。受診できない場合は、かかりつけ医と連携し、適切な処置等対応を行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所で看護職員を配置し、日常の健康管理を行っているところである。また協力医や併設施設との看護職員との情報交換を実施し医療支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーと関係医療機関の窓口(地域連携室等)との情報交換を行い退院支援を行っているところである。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期のケアについてご家族の意思を確認している。また、重度化した場合等について、必要に応じてかかりつけ医、協力医との連携を行い看取り介護を実施している。また看取り介護指針を設置し、方針の共有を図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の「事故対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」に即して職員に周知しており、その通り実施しているところである。また、消防署の救急隊員の協力のもと、対応の講習を行っている。AED・酸素吸入器もあり講習も実施。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・昼間を想定した避難訓練を実施しているところである。また地域自治会と防災協定を結び、地域連携訓練を実施している。併設特養と連携訓練も行なったり、土砂災害の避難訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーやプライドを尊重し、日々のケアの中で周囲に判らないケアを心掛けている。また、プライバシー情報に関する保護の方針・目的を策定、内部研修などで周知を図り実践しているところである。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、選択の自由を心掛けたケアを行っている。利用者との会話では命令口調にならないよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課にそった基本的な流れはあるが、個人のペースにそって無理のない生活が送れるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を自由に着て頂いている。定期的に理容ボランティアの支援、スタッフでは随時散髪、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは利用者さんと共に行っている。また味付けの助言も毎日頂いている。スタッフと利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しめるよう雰囲気作りを大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェックし、記録することでスタッフが情報を共有している。メニューは併設施設の管理栄養士にチェックをして頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っており、可能な限る自力で歯磨きを行って頂いている。就寝前に義歯洗浄剤での洗浄も実施し、清潔な状態を保っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握したうえで適切な介助を行っているところである。またプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録にて管理し、それを基に日々のおやつや水分量の調整を行っている。野菜、果物、繊維質の多い食材を取り入れ、栄養バランスに気を付けている。併設施設の管理栄養士からアドバイスを適宜受けたり、昼食前の全員での体操や、1日2回の歩行訓練を取り入れる等の工夫をしている。また、今年度は特に水分摂取量に目標値を定めたり、自家製ドリンクを飲んでいただいたり取り組みを行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、日中ではあるが一人ひとりに入浴順の記希望やタイミングを確認しながら対応している。入浴剤なども使用している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握したうえで、日中に活動が多くなるよう支援させて頂き、夜には落ちついた環境を提供し、安眠して頂けるよう支援している。日中水分を多く取ることで安眠できるよう回数を多くしている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効についてのファイルを作成している。全職員がその情報を共有し、いつでも確認ができるようにしている。また、薬の変更時には、本人への説明も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、その方々に役割を持って頂けるよう、促し支援を行っているところである。また、生活歴などから、その人の得意なことを把握し発揮して頂けるようなチャンス作り心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温などを考慮し、希望に沿って散歩や外出ができるよう支援してるところである。季節に応じてふきのとうやふき、栗ひろいなども一緒に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者の方は、安心感の為に自分の財布や小額の金銭を持って頂いている。買い物、ドライブなどに出掛けることで支援している。また、併設施設での喫茶店や自販機まで職員が付き添い、飲み物を購入して頂いたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが書いた年賀状を毎年送ったり、手紙に関しては必要に応じて支援している。希望のある方は、ご家族に電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が作成した作品を廊下に掲示したり、季節に合った壁画を飾ったり、各居室の前の廊下には花を生けて飾ったりしている。台所からはいつも調理の音や匂いがするよう家庭的で居心地の良い空間づくりを心掛けています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、個々の居場所を確保し気の合ったご利用様が一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込んで使用して頂いている。家族の写真も目の見える所に置いたり、自分の作った作品なども飾って頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、階段等移動空間に手摺を配置し出来るだけ自立歩行が可能なよう安全面に配慮している。		